

1995/6

Vol. 1

# 石川県リハビリテーションセンターニュース

## リハビリテーションセンターのご案内

地域リハビリテーション支援事業をおこなうテクニカルエイドセンターの運用を開始しました。

このセンターは、さまざまな障害をもちリハビリテーションサービスを必要とする方々とその家族をはじめ、これらの方々にかかわる医療・福祉施設の職員に対して、地域の関係機関との連携のもとに、次のような相談に対応いたします。

- **主な相談内容**
  - ・ 自立支援機器（自助具、介護機器、移動用機器等）の適応や使用方法について、お困りになっていることのご相談
  - ・ 障害者住宅の設計や改造について、臨床例など専門的な検討
  - ・ 障害者の自動車運転について、能力評価と訓練方法の検討
  - ・ 各種年金や公的助成制度等の社会資源の活用についてのご相談
  - ・ その他リハビリテーションに関するいろいろなご相談
- **相談日** 毎週 月、水、金曜日 午後1時から4時まで
- **担当者** リハビリ専門医師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカー、リハビリ工学技師
- **その他** 上記ご相談の結果、医学的リハビリの評価・訓練が必要になった場合は、短期の入院コースが用意されます。  
また、ご相談の内容によっては、関係職員の方との調整や現地調査の必要性から、対象施設及び対象者の自宅を訪問する事があります。

## 利用方法

- **電話相談** このセンターをご利用になりたい方は、まず電話でご照会ください。ソーシャルワーカー又は作業療法士がおうけします。
- **相談日予約** リハビリテーションについてのいろいろなご相談は、原則として照会予約制となっておりますので、電話でご照会のときに相談予定日をお知らせします。  
※直接来所されてもその日にはご利用できないこともあります。
- **電話番号** (0762) 66-2860
- **F A X** (0762) 66-2864

## 平成7年度研修事業実施計画

◇本年度の研修予定はつぎのとおりですので、年間計画を立てる際に参考にしてください。

◇実施要領は、研修日のおよそ1カ月前までに対象者の所属機関・施設へご案内します。

◇研修内容・その他詳しくは当センターへお問い合わせください。

月 日 (曜日)	研 修 名 (テーマ) 研 修 内 容	講 師 (予 定)	対 象 者 予 定 人 数
7月8日 (土)	第3回リハビリテーション研修 (PT・OT新卒者研修)	石川県理学療法士会長 石川県作業療法士会長 接遇講師 リハビリセンター職員	おおむね卒業後3年 以内のPT・OT
	医療人としての心構え、接遇について		30名
7月19日 (水) 20日 (木)	第1回障害者日常生活補助具製作 研修	リハビリセンター職員ほか	主に福祉施設職員
	補助具の簡単な製作方法や市販製 品の改良方法について		20名
9月9日 (土)	第4回リハビリテーション研修 (リハビリ医療技術者研修)	金沢大学病院整形外科医師 リハビリセンター職員ほか	PT・OT 看護婦等
	関節可動域障害に対する整形外科 的治療について		100名
9月20日 (水) 21日 (木)	第2回障害者日常生活補助具製作 研修	リハビリセンター職員ほか	県市町村の保健婦
	補助具の簡単な製作方法や市販製 品の改良方法について		20名
10月21日 (土)	第5回リハビリテーション研修 (リハビリ医療技術者研修)	石川県建築士協会女性部長 山田文代氏 金沢美工大教授 荒井利春氏 リハビリセンター職員ほか	PT・OT 保健婦等
	障害をもつ人のための住宅・自立 支援機器について		50名
11月11日 (土)	第6回リハビリテーション研修 (車椅子フォーラム)	未 定	リハビリ関連職種 一般その他
	未 定		150名
11月15日 (水) 16日 (木)	第3回障害者日常生活補助具製作 研修	リハビリセンター職員ほか	福祉施設職員、市 町村保健婦等
	補助具の簡単な製作方法や市販製 品の改良方法について		20名
1月27日 (土)	第7回リハビリテーション研修 (地域リハビリ医療技師研修)	未 定	PT・OT 保健婦等
	未 定		150名
2月21日 (水) 22日 (木)	第4回障害者日常生活補助具製作 研修	リハビリテーション職員ほか	施設職員、県市町 村保健婦、介護者
	補助具の簡単な製作方法や市販製 品の改良方法について		20名

## 機能的電気刺激療法 (FES)



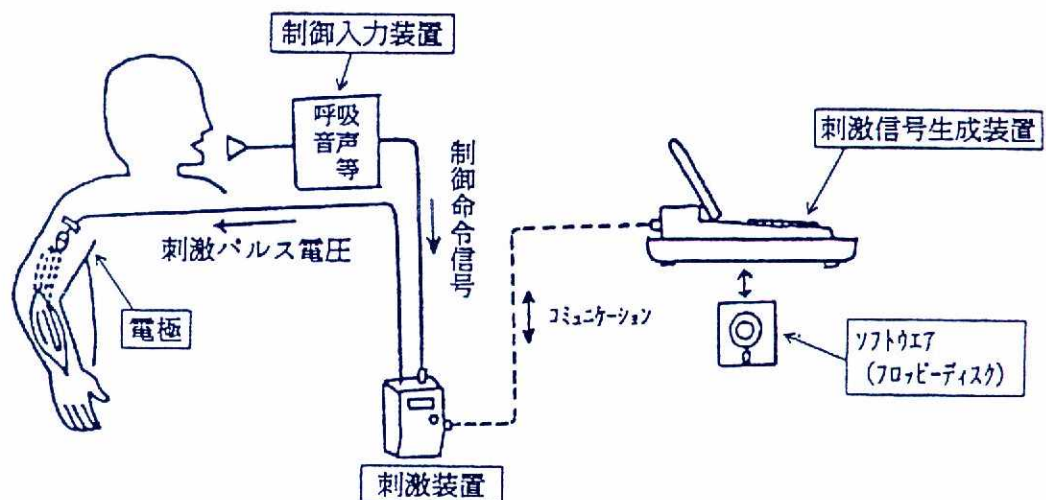
### — 筋肉の痙性抑制に電気刺激 —

脳卒中や脊髄損傷によって筋肉の痙性が出現してきて生活上の支障をきたしたり、麻痺が回復してきても痙性によって筋肉の動きが妨げられ、有効に手足が動かないことがよくあります。これは本来筋肉の緊張を適度に保つための中枢のコントロールがはずれてしまったためです。したがって手足の末梢の神経が麻痺しても痙性はでできません。

この痙性を抑える治療として薬を使ったり、また温熱療法、徒手療法を使ったりします。また電気刺激も使われますが、電気の場合皮膚の表面からの刺激では電流を強くすると痛みがでできます。このため皮膚表面からではなく、直接筋肉へ電極を埋め込んで刺激する方法が、東北大学を中心に研究開発され実際に多くの人が使用しています。また痙性を抑えるばかりでなく、麻痺して動かなくなった筋肉の動きを電氣的指令によって動かすことも行われています。いわゆる心臓のペースメーカーのように、自分の力では動かせなくなった筋肉を電気力で動かしてもらうものです。

この技術が可能になったのは、医学の進歩というよりは日本の工学技術の進歩によります。このようにリハビリテーションは、世の中のさまざまな技術の進歩をうまく取り入れて社会に還元していくものです。人間と技術を結びつけ本来は切り捨てられていたものを蘇らせる発掘、新しい発想が必要です。

図 FESシステムのしくみ



## リハビリ訓練等機器の紹介



▲ 体幹筋力評価訓練装置  
MYORET RZ-450  
(川崎重工社製)

上肢・下肢筋力評価訓練装置

▼ CYBEX 6000 (米国サイベックス社製)



### 等速度運動訓練機器 (筋力評価訓練装置)

人間の手足の筋力や体幹の筋力をコンピュータにより評価し、患者の状態に応じた筋力強化プログラムをたて、訓練することができます。

筋肉には速い運動に働くもの、遅い運動に働くものがあり、本装置はコンピュータ制御による等速度運動を用いることより、どの筋に対しても効果的な筋力強化が行えるものであり、整形外科術後の筋力強化訓練、スポーツ傷害後の筋力強化訓練等に用いられます。当センターでは、上肢・下肢用、体幹用の2機種を設置しています。



### 虹の窓から

所長 山田 浩

リハビリテーションの本来の意義は、損なわれた人權、名誉の回復であり、自立能力を高めて家庭や社会生活に適合して生き甲斐のある人間らしい生活を取り戻すことにあります。

障害は「機能・形態障害」「能力障害」「社会的不利」の3段階でとらえられます。脳卒中で片麻痺となり手足が動かなくなったのが「機能・形態障害」にあたり、これによって日常生活活動、歩行などが出来なくなり通常の行動が制限されるのが「能力障害」であり、こうした能力の低下により職を失ったり施設にとどまらざるを得なくなるのが「社会的不利」と云えます。「機能・形態障害」の面で回復が望めないなら「能力障害」の面で何とかならないか、これに限界があるなら「社会的不利」を何とか出来ないかと、しつこくあきらめないのがリハビリテーションであります。

当センターのエントランスホールの壁面に環境造形作家西田明未さんのモニュメント「虹」が飾られております。このセンターで強く明るくリハビリテーションに励み、胸一杯の希望とともに新たな世界に出発する人々を祝福する気持ちを込めたものです。私たちは毎日このモニュメント「虹」とともに、県民の皆様から愛され、親しまれそして信頼されるリハビリテーションセンターになるよう努めていきたいと考えております。

編集・発行 石川県リハビリテーションセンター  
〒920-03  
金沢市赤土町=13-1  
TEL (0762) 66-2860  
FAX (0762) 66-2864